



KAGOSHIMA Y'S MEN'S CLUB

2025. **5** 月号

鹿児島ワイズメンズクラブ No. 413

国際会長：A. Shanvaskhan [インド] より良い世界のために、共に
Together for a Better World

アジア太平洋地域会長：Joan Wong [香港] 大きなインパクトを起こそう
Make a Great Impact

西日本区理事：鶴丹谷 剛 [神戸クラブ] つなげよう地域と世界 YMCAとともに
Connect Local and World with YMCA

九州部部长：大崎 隆 義 [熊本さくらクラブ] 始めからもう一度



みつかる、つながる、よくなっていく

鹿児島クラブ会長 新内 博之

八代クラブ・鹿児島クラブ 合同例会報告

鹿児島クラブ 園屋高志、写真は守田富男ワイズ提供

4月29日(休日)に、恒例の2クラブ合同例会を行いました。昨年は鹿児島クラブの企画で出水市内観光でしたが、今年は八代クラブの企画で、「アートのまち 津奈木町」を巡る旅をしました。鹿児島クラブからは11名(メネット、コメット、ゲスト)がオレンジ鉄道に乗って、一方八代クラブからは4名がマイクロバスで、津奈木駅に集まりそこからスタートしました。津奈木美術館を見た後、珍しいモノレールで急坂を登り、重盤岩からの絶景を眺め、その後地元のお店でフグの天ぷら定食を堪能しました。ご機嫌なメンバーは生ビールを飲み、笑いの絶えない自己紹介で、盛り上がりしました。

午後は、マイクロバスに乗って、野外展示の珍しい仏像や声の出る奇岩を見た後、海上に建つ元赤崎小学校や海の景色を眺めました。その後、星野富弘美術館(芦北町)を回り、津奈木駅近くの物産館でお土産を買い、津奈木駅で解散となりました。津奈木という駅名は知っていましたが、自然と人工物が織りなすアートにあふれた町であることは今まで知りませんでした。また、津奈木は「つなぎ」ということで、人と人を「つなぎ」のにふさわしい雰囲気を感じました。モノレールで案内された地元の方がユーモアあふれるガイドをされ、帰り際にみんなで手をつないで輪になって絆を確かめたことが印象に残る思い出です。

このような素晴らしい企画をされた、守田富男、涼子ご夫妻、森律子ワイズ、またマイクロバスを用意して運転してくださった八代クラブ担当主事の福山裕敏さんに、心より感謝の意を表します。



TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT



先日の八代ワイズメンズクラブとの合同例会は本当に楽しいひと時でした。舞台となった津奈木町は、みなさんこれまでの人生において一度は通ったことのある町、いや通り過ぎたことがある町でした。八代クラブの守田会長が選んでくれた見どころポイントはどこも素晴らしく、津奈木町の魅力をたくさん「みつかる」ことができました。ロープウェイをガイドしてくださった方が、津奈木町は人と人をつなぐ町とPRしてくださいましたが、まさに八代クラブと鹿児島クラブを強く「つなげてくれた」時と場所を提供してくれました。帰りの肥薩線、新幹線ではクラブ同士の関係が「よくなった」だけでなく、参加した鹿児島クラブの面々の関係性もより「よくなった」印象です。

私はワイズメンズクラブとは本当に不思議な団体だなとも思います。なぜならワイズメンズクラブは何をする団体なのか、何をしている団体なのか、私はうまく言語化できないからです。私の勉強不足もあるのかもしれませんが、全国各地にあるワイズメンズクラブは同じ印象がある部分とクラブごとの色があるんだと感じます。

ワイズメンズクラブもなにか面白いことを「みつかる」ことに長けている団体だなとも思います。例えば熊本地震の時、熊本ワイズメンズクラブが主体となって大きな働きをされたことは記憶に新しいところです。募金活動とかだけじゃなく、自分たちが主体的に避難所運営を助けたり、避難している方々へ寄り添った活動など気づいたことを幅広くやっていました。困っている人たちのためにやることを「みつかる」パワーが凄いという印象でした。

まもなく西日本区大会があったり、夏にはアジア太平洋地域大会が熊本で行われますが、ワイズメンたちは本当に「つながる」名人が多いことに驚きます。初めて会う人、久しぶりに会う人を大切に、そこにお酒があると「つながる」パワーが加速します。人間関係を構築していくスピードの速さに驚かされますし、高度経済成長期を彷彿とさせる昭和パワーを感じさせてくれる魅力がワイズメンズクラブにはあると思います。

そして、ワイズメンズクラブで活動しているおひとりおひとりに幸福感があふれているという印象を私は持っています。まさにワイズメンズクラブの活動はおひとりおひとりの人生が良くなっている舞台なのだと思うのです。

鹿児島クラブだけで活動しているとなかなか気づけないことが、先日の八代クラブとの時間の中にもありました。鹿児島クラブの色を改めて確認するとともに、このワイズの不思議な魅力は鹿児島クラブにも息づいている、そして私たちの活動も私たちの人生を照らしてくれる、よくなっている場だと再認識させてくれた八代クラブとの合同例会でした。



本格的な春の到来となり、山々の色鮮やかに輝く新緑に心も晴れやかになります。暖かな陽気に誘われ、のんびりしたい気持ちに駆られますが、いよいよ6月の西日本区大会も1カ月少し、そして今年度も残す所2か月となり、最終コーナーを踏ん張って駆け上がって参りたいと思います。

3月28日発生の中越地震の甚大な被害に本当に心苦しい次第です。現地のYMCAとワイズメンズクラブによる救済支援が実施中、我々が所属のアジア太平洋地域(エリア)でのNDERF(自然災害緊急支援基金)よりUSD5,000の支援が決定されましたが、到底十分ではなく、エリアから各地区へ募金依頼が発信されました。各YMCAの募金と並行し、西日本区として、エリアおよび日本YMCA同盟募金への協力呼びかけを開始しましたので、どうぞご協力をよろしくお願いいたします。

12日には第3回役員会が開催され、引き続き重要な案件を協議しています。今後の事業活性化に向け新たな規則や細則の制定、合理的な組織運営に向けた委員会の枠組み変更など多くの議案が承認されました。また、今後の区報配信方法やユース事業強化等に関わる事など、多くの協議案に対し活発な議論がなされ、引き続き具体的議案に向けてまいります。いずれも今後の西日本区活性化や合理化に向けた大切な事であり、西日本区メンバー皆さまにおかれましても、しっかりとご認識くださいますようお願い申し上げます。

19日には東広島クラブ30周年記念例会に参加しました。地域に根差した素晴らしい活動を長年継続されており、現在は少人数クラブ運営ながら『3名でもやれる』をモットーに、記念例会もそれぞれのお役目を見事に全うされ、ユニークなプログラムと賑やかな交流で充実した祝会となりました。

4月下旬には、山田国際・交流事業主任によるプラス1交流の西日本区全地域バイクツーリングの九州部ツアーへ参加しました。私は自動車での伴走でしたが、京都部や九州部から総勢延べ10名程でツーリングをしながら、訪問各地で九州部の方々から温かいおもてなしをいただき、春麗らかな2泊3日の旅は、最高に楽しく思い出にのこる交流となりました。

また、今まで理事通信挨拶の中でご紹介が出来ていなく恐縮ですが、この一年、各クラブ、各部から、素晴らしい事業報告の数々と、各クラブの個性溢れるブリテンを多くお送りくださっている事に對し、この場をかりて感謝申し上げます。

役員会等でのワイズ変革へのチャンレジも真剣にしていますが、同時に各部、各クラブにおいてユニークな事業取組み全てが、そこに関わるメンバー皆さまにとってのチャンレジだと感じています。西日本区大会テーマの『Challenge for Change』。常に変化へのチャンレジをし続けていくことが、我々のより良い未来を創り上げていく一歩と感じています。

西日本区国際・交流事業バイクツーリング交流報告

西日本区国際・交流事業山田主任のご提案で、バイクツーリングによる各部との交流事業が今期開催されています。去る4月26日から28日にかけて九州縦断の旅が始まりました。26日に北九州を出発し、阿蘇にて宿泊・交流。27日に鹿児島で昼食、八代宿泊・交流し、28日に熊本、福岡という流れです。鹿児島では徳田ワイズと私がお出迎えしました。各県のYMCA訪問も目的でしたが、鹿児島YMCAは建屋がありませんので、ザビエル上陸の地を案内し昼食を共にしよう、ということで祇園の洲の石橋記念公園に集合しました。鵜丹谷西日本区理事が車で伴走され、山田主任はじめ7名ものワイズライダーが颯爽と到着されました。浜町のベイサイドプラザの『ふく福』で一緒にランチを食べ、そのあとザビエル上陸地を案内。最高のお天気で、桜島も実に美しく、皆さんを迎えてくれた感じです。そして、皆さんは次の目的地の八代に向けて旅立ちました。何とか形になりました。九州の広さに皆さんびっくりされた事でしょう。

(鹿児島クラブ 中堀 清哲)



今月の樹 クスノキ

日本の暖地の代表的な木である。特に神社によく植えられ、大切に保存されたものは巨木に成長している。九州地方に楠の巨木が多く、鹿児島の蒲生の大楠は幹周24.2mで、日本最大の巨木である。楠の幹や葉を切ると樟腦のにおいがするが、楠は腐食や害虫に強く長寿である。蒲生の大楠は樹齢1500年と言われる。

クスノキの花は目立たないが、今満開である。近寄ってよく見ると、つぼみの開いた花には、ちゃんと6枚の花弁と12個の雄しべがある。クスノキ科の木は、クロモジ、ヤマコウバシ、ダンコウバイ、アブラチャン、月桂樹などがあるが、いずれも花全体が半透明の黄緑色で、似ていることが解る。

学名はCinnamomum camphoraで、クスノキ科クスノキ属である。



4 April

4月定例会報告

日時：令和7年4月29日(火)

場所：津奈木町

出席者：15名

鹿児島クラブ11名・八代クラブ4名

内容：「アートのまち 津奈木町」を巡る旅

今月の聖句

すべての人と共に平和を、また聖なる生活を
追い求めなさい。

(ヘブライ12章14節)



4月例会の記録

クラブ在籍者	9名
出席者	6名
メネット	3名
コメット	1名
ゲスト	5名
ビジター	0名
メイクアップ	2名
4月出席率	189%

鹿児島ワイズメンズクラブ
WEBサイトはこちら▶



チアダンス発表会

4月13日に、鹿児島市の川商ホール第1にて総勢260名による第11回鹿児島YMCAチアダンススクール発表会を開催しました。1年の成果を発表する場として、参加した子どもたちも、見守っていたご家族の方々にもたくさん笑顔があふれた1日となりました。



新シーズンスター！

鹿児島YMCAの事業年度は3月末なのですが、4月に発表会をしていることもあり、4月末でシーズン終了、ゴールデンウィーク明けの5月から新しいシーズンが始まります。発表会を機に辞めてしまう仲間もいるので、4月末はどこかさみしい空気が漂っていますが、5月になると、さあこれからやるぞー、新しいお友達ができたー！といった声が溢れます。

昨年までリーダーをしていたスタッフが就職で上京、一人減りましたが、5人でチアダンス活動を支えています。チーフリーダーとして、16年目に突入したまるリーダー（新内容子）、11年目のベテランとなったドリームリーダー（荒田夢子）、小1からうちでチアを習い、今は大学生。リーダーとしては3年目になったピースリーダー（通村紗奈）、そしてリーダー2年目、現役の選手でもあり、3歳から敬愛幼稚園で体操、小学生からチアを続けているゆずちゃん（瀬戸山柚妃）※まだ高校3年生なのでリーダー名はありません。最後に写真はありますが、5月から加入したマリンリーダーは、現在大学1年生で中学までYMCAでチアをやって育ったリーダーです。

今シーズンも子どもたちの笑顔溢れる時間を創出していくべく、リーダー一同がんばります。



鹿児島YMCA 新内 博之